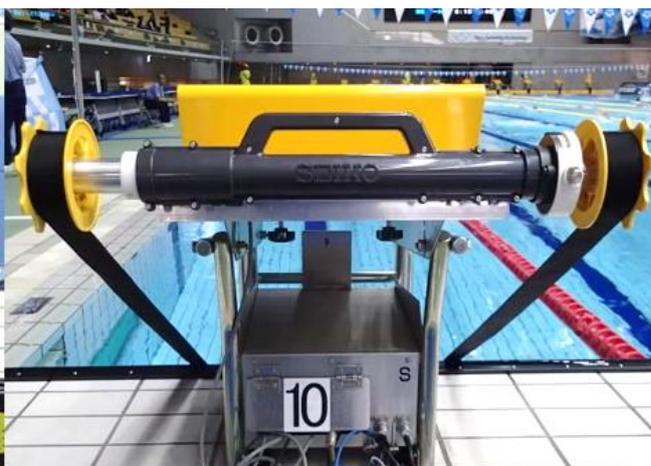
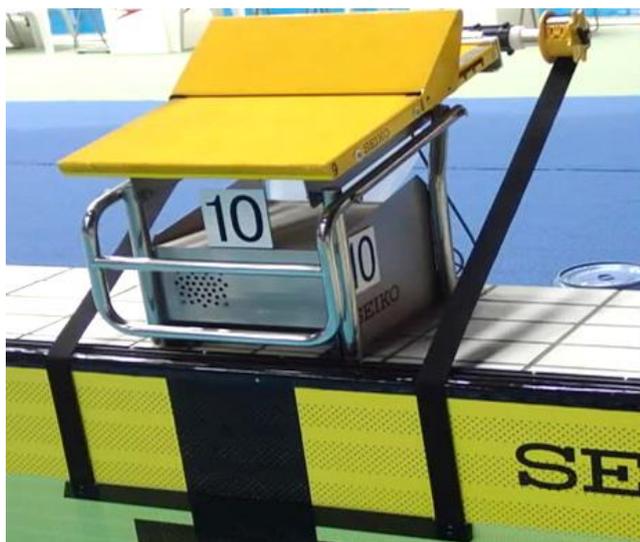


SEIKOバックストロークレッジ設置手順



背泳ぎ用スタート補助装置
セイコーバックストロークレッジ
BSL-100

- ① 設置前にスタート台のバックプレートが一番前にする。



- ② 本体の右側にダイヤルがあることを確認し、レッジのベルト側を手前にしてスタート台バックプレートの後ろに置く。



- ③ 本体を回しながらベルトを全てを出す。本体をスタート台アタッチメントにはめ込み、きちんと設置されたかを押して確認する。



- ④ ダイヤルのメモリ『±0』を確認する。その後ダイヤルは触らない。(選手が調整する)



- ⑤ 片足をスタート台横に、もう片足をプールサイドに置きレッジを水中に入れる。ベルトのよじれ、たるみを直す。



- ⑥ 審判長のロングホイッスルでスタート台横に上がり、選手の両足つま先がタッチ板に触れているかを確認する。触れていない場合（レッジの上に乗っている等）はタッチ板に触れるように指示する。



良い例



悪い例

- ⑦ 確認後は速やかに、台上に立ったまま顔を上げ前方を見る。その後、下を見ない。



- ⑧ スタート後、選手の最初のひとかきの終了までの動作を確認し、主任に合図する。



- ⑨ 片足をスタート台横に、もう片足をピールサイドに置き、レッグを引き上げ、スタート台バックプレート後ろにベルト側を手前にして置く。



- ⑩ ゴール監察後、主任に合図して、選手にぶつからないように声をかけてから、片足をスタート台横、もう片足をプールサイドに置きレッジを水中に入れる。



- ⑪ 複数組続く場合は、⑤～⑩を繰り返す。

- ⑫ 選手がレッジを使用しない旨申告した場合、レッジは水中に入れず、スタート台バックプレート後ろに置いたままにする。スタート時は他の折返監察員と同様、スタート台横に上がる。



- ⑬ 最終組がスタートして主任に合図後、レッジを引き上げて、バックプレートの後ろにレッジのベルト側を手前に置き、本体をスタート台アタッチメントから外してベルトを巻き上げる。



- ⑭ メドレーリレーの場合は、
第1泳者スタート後に
レッジを上げて
スタート台後方
プールサイド床に置く。
(スタート台上には置かない)

